



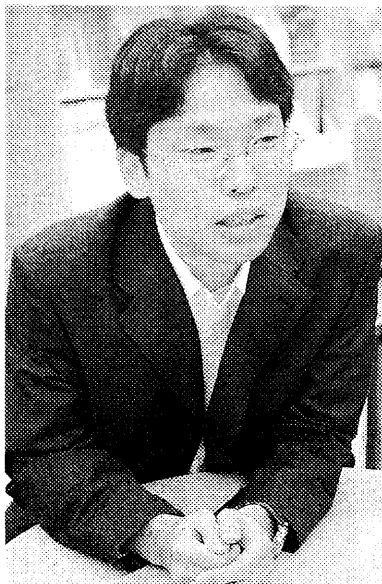
第2部

大みそかの平和記念公園 話も小中学校で漠然と学んだ(広島市中区)で、世界平和程度でした。それでもテレビを折ってカウントダウンを行って平和記念式典を見る度に、イベントを主催していま、被爆地ヒロシマの意義深さを。今年で四回目ですが、来感じていました。

年は被爆六十年の節目の年。しかし二〇〇一年九月十一「来年こそは平和な世の中に」日の米同時テロ事件で意識がしたい」の思いをヒロシマが変わりました。とんでもないら発信するため、規模を拡大、ことが起きたのに、ヒロシマ国内外からも参加してもらおうと、大手旅行会社と提携したツアーも企画しました。募る一方、自分のような普通県外出身者で、建設コンサルの市民に何ができるのかを考ルタンの会社員である私がえるようになりました。広島に来たのは六年前。平和運動には全く縁遠く、原爆の

平和のための年越しイベント主催 ワールド・ピース・ヒロシマ代表

前島 修さん 31



「平和へのカウントダウンは市民が主役。一人ひとりがそれぞれの祈りをささげてほしい」と語る前島さん

大みそか「イマジニ」競演

158

カウントダウンをしてみよと、始めました。う」と盛り上がりました。半市にかけあつて公園の使用分冗談でしたが、よく考えた許可をもらい、手探りで準備

園の「平和の灯」から採火し八組がジョン・レノンの「イタろうそくを参加者にとってマジニ」を競演、世界的に有名なこの反戦歌を参加者全員で歌う計画です。

夢は、「大みそかのヒロシマには『イマジニ』を歌うイベントが

ら都市であればどこでもやっを進めました。八月六日にちにある年越し行事が広島には、八十六本のろうそくありません。被爆体験もなく、を原爆ドームを望む元安川護岸に並べて、幅約十畳の「Wただでも、大みそかを平和記 only Peace (ワールド・ピース)」のキャンディ念公園で静かに過ごすイベント文字をついたり、平和公

トぐらひは企画できるのでは、火を吹き消したり。「核兵器が地球上から消える日まで燃やし続ける」という火を消すことで、核廃絶の祈りを込めてもらうためです。

今年から参加型の要素を採り入れました。カウントダウン前に平和コンサートを開き、公募で選んだ地元バンド

メモ

一九七三年、山口県熊毛町(現・周南市)生まれ。東京の大学、大学院に進み、建設工学を専攻。九八年に広島市内の建設コンサルタント会社に入社し、同市南区に在住。市民団体「ワールド・ピース・ヒロシマ」は、ジャンボ折り鶴の制作や、真珠湾攻撃の十二月八日に平和記念公園の平和の鐘を鳴らすイベント「ピースベル・ハーモニー」なども主催している。